

十和田地下 LRT

提案資料 ver.2

日本人専用

本提案は純に日本国土を新規に開拓する内容であり、専ら日本人を対象としている。

日本人が主導する事業として支持が得られないのであれば廃案を求める。

- ◆ 移住の受け入れは日本人に限る
 - ◆ 日本人が安らかに暮らすことができる時空間を提供することが主目的である。ただし、外国人の立ち入りを全面的に禁止するわけではない。期間を限った滞在は認める。
- ◆ 外国人労働者を採用してはならない
 - ◆ 事業の実施にあたって外国人労働者を採用してはならない。専ら日本人によって成し遂げられるべきである。ただし、講師・技術指導者として外国人を招聘することは認める。
- ◆ 分譲住宅・マンションの建設は禁止(=域外から民間資金を調達することは禁止)
 - ◆ 既存の住宅を活用することが原則である。住宅を建設する場合は域内で資金を調達すること。可能な限り域内の建設業者が施工する。ここで言う“域内”とは十和田市のことである。建設業者については最大で青森県の範囲まで広げて解釈しても良い。

地下LRT

高齢者など自力で自動車を運転することが困難な人が日常生活の足として利用することができる公共交通機関

- ◆ バスとの違い
 - ◆ 大地に鉄の道が敷設されており多大な費用をかけなければ経路の変更ができないことから、誰の目にも明らかな都市の骨格として機能する。定時性・快適性に優れる。
- ◆ 地下鉄との違い
 - ◆ 高速・大量輸送を目的としない。駅間距離は路面電車並みとする。駅は階段・エレベーター※・ホームドア※のシンプルな構造とし、改札は設けない。トイレは主要駅のみ。（※万全の排水対策は行うが万一冠水しても壊れないよう配慮する）
- ◆ 従来の路面電車・LRTとの違い
 - ◆ 自動車の通行の支障とならない上に、二車線以上の道路から敷設が可能となる。地上に敷設するとなると、最低四車線以上の道路でなければならない上に、車線の減少による不便を受け入れなければならない。

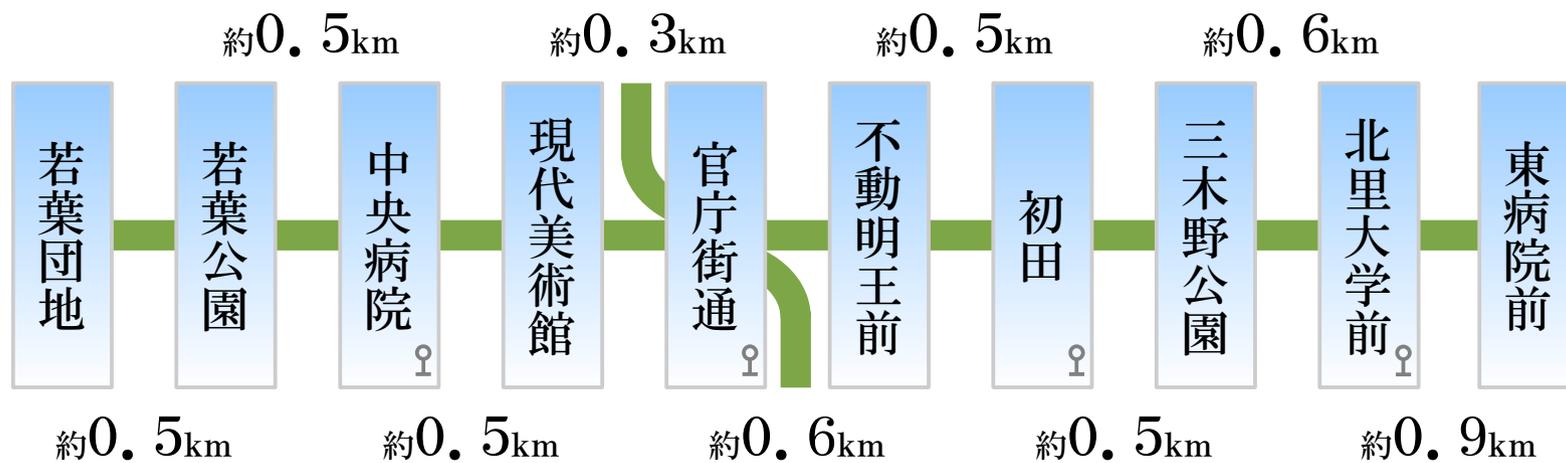
特徴

緻密に計画された碁盤目状の街並みを最大限活用し、「暮らしやすいインフラ」を整備することで地域の魅力を高め、移住者※を引き寄せる。

※ 移住の受け入れは日本人に限る

- ◆ 近隣に新幹線駅があるので他都市との往来が容易
 - ◆ 何かあったとき(冠婚葬祭等)生まれ育った土地に戻ることが容易である。家族や福祉関係者が訪問することも容易である。
- ◆ 「暮らしやすいインフラ」を目的に据えてゼロから構想された鉄道
 - ◆ 元来鉄道は都市と都市を結ぶもので貨物の輸送に力を発揮した。既存の鉄道は都市と都市、又は都市と港、産地、工場を結ぶルートで建設されている。新幹線をはじめとする近年開業した鉄道は高速輸送に重点を置いているため、直線ルートで建設されている。「暮らしやすいインフラ」を目的に据えた鉄道はこれらのどれとも違う。
- ◆ 雪に影響されることのない公共交通機関
 - ◆ 地下区間は除雪車の出動が不要である。全線地下で建設すれば雪に影響されることなく運行できる。

十和田地下 LRT (東西線: 若葉団地～東病院前)

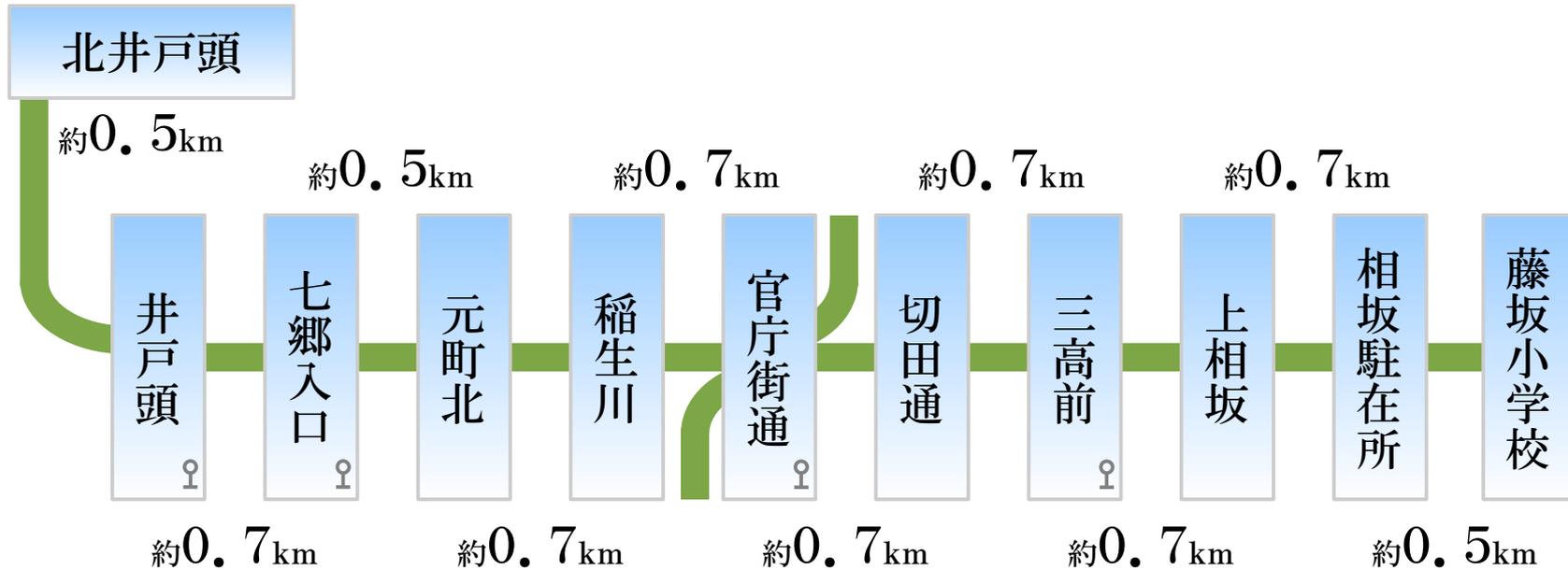


十和田地下 LRT (東西線)

若葉団地 東病院前

官庁街通で南北線と平面交差する
全長: 約4.9km・平均駅間距離: 約0.5km

十和田地下 LRT (南北線:北井戸頭～藤坂小学校)



十和田地下 LRT (南北線)

北井戸頭 藤坂小学校

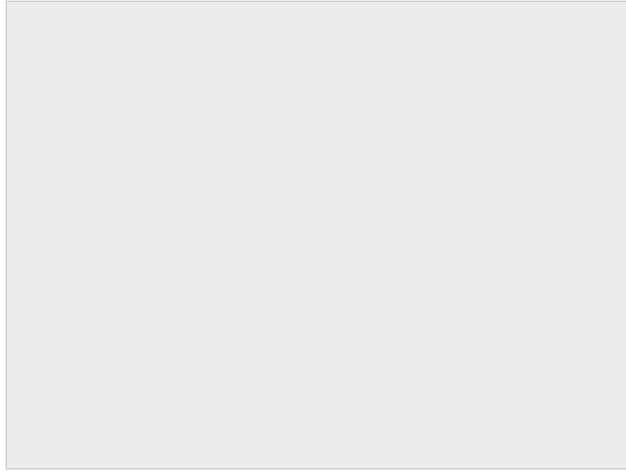
官庁街通で東西線と平面交差する
全長:約6.4km・平均駅間距離:約0.6km

官庁街通周辺

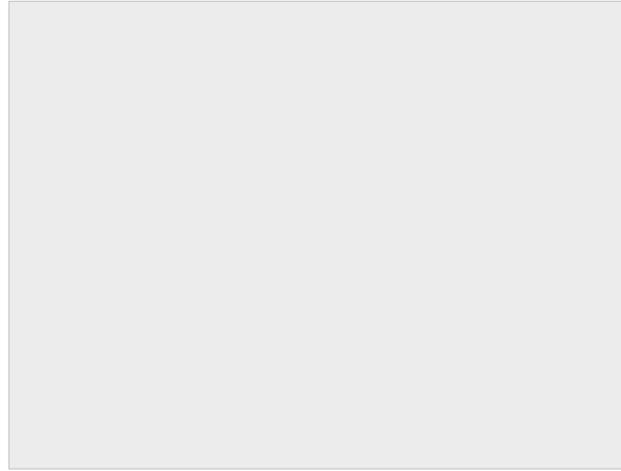


※ ルートは仮案

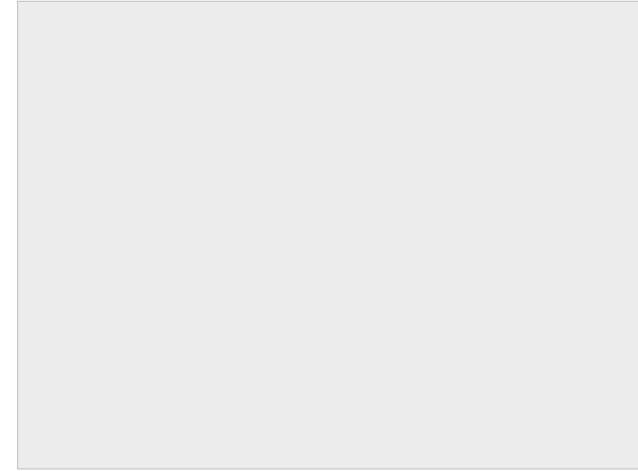
駅位置【2017.10.6】



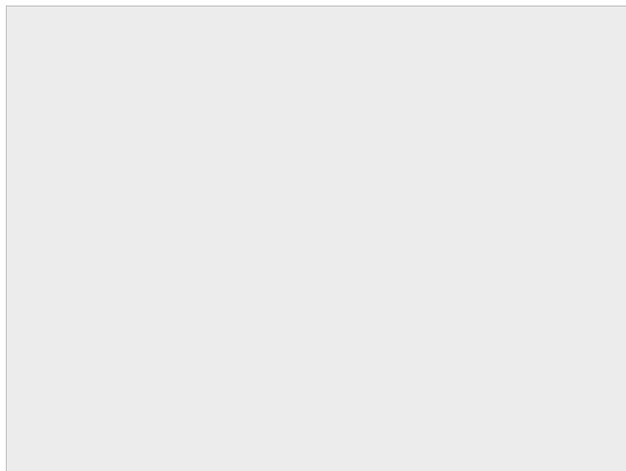
若葉団地



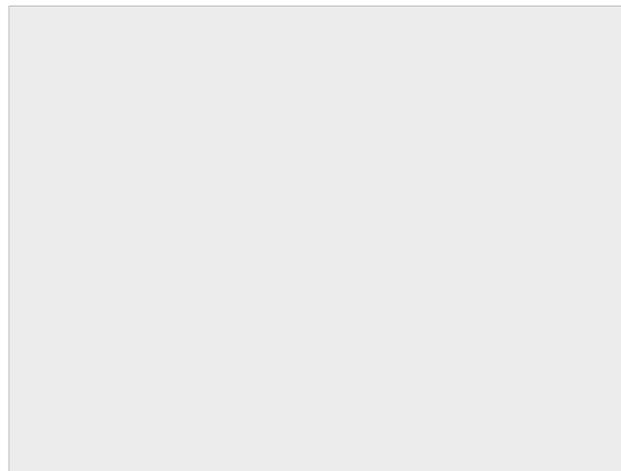
若葉公園



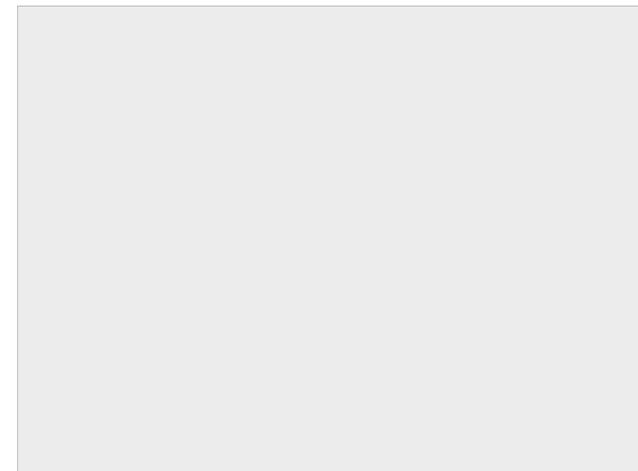
初田



三木野公園

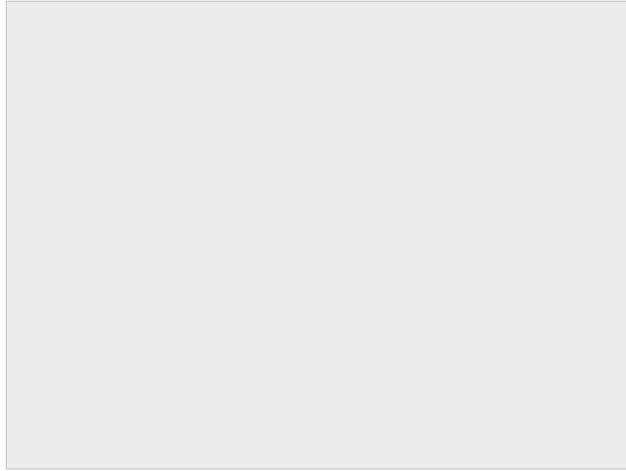


北里大学前

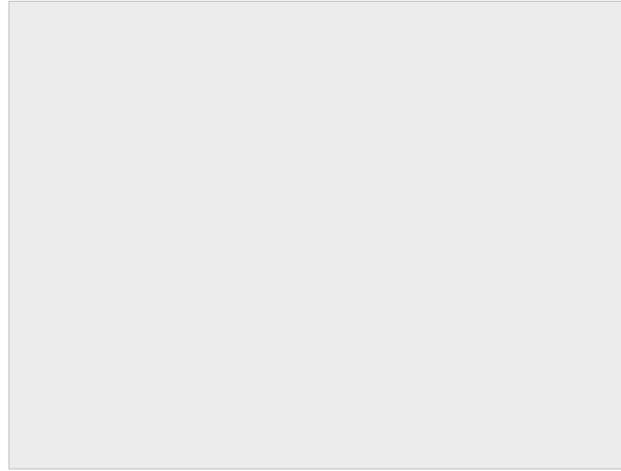


東病院前

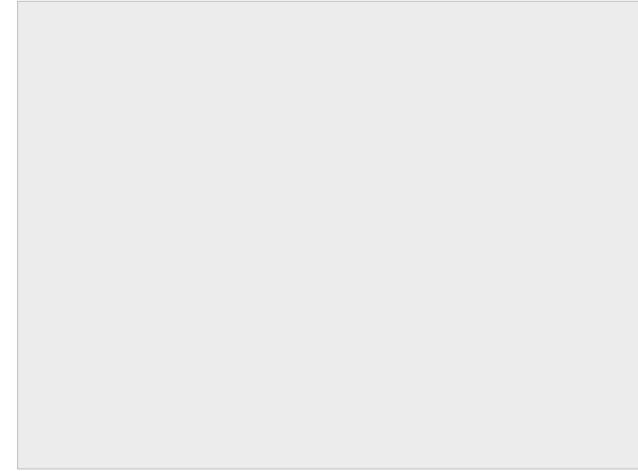
駅位置【2017.10.6】



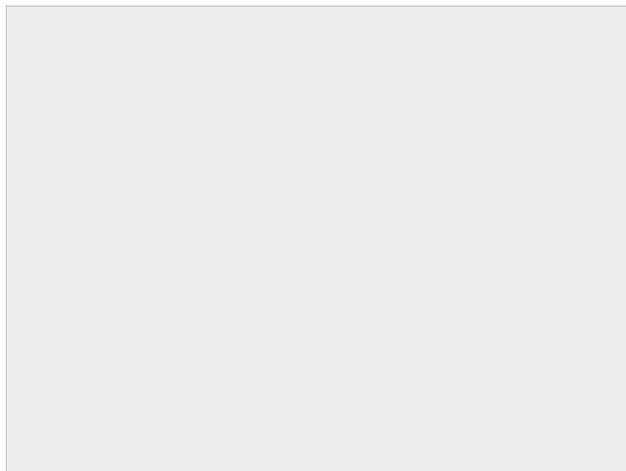
北井戸頭



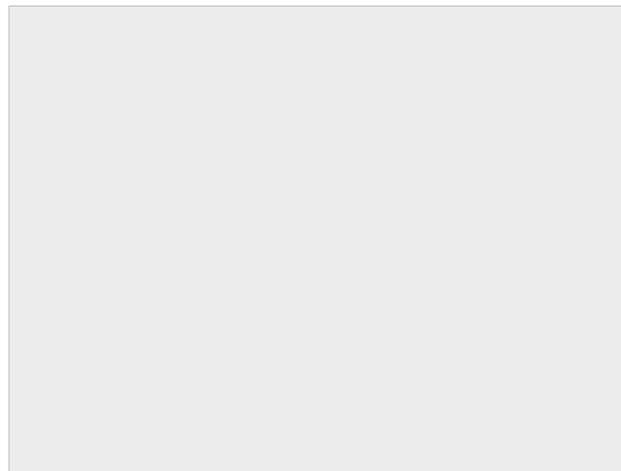
元町北



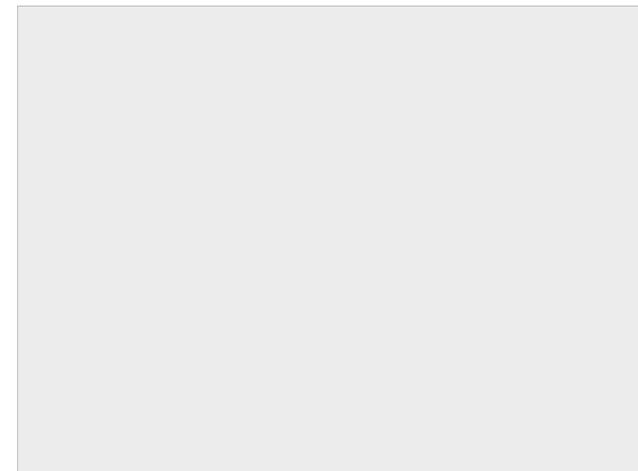
三高前



上相坂



相坂駐在所



藤坂小学校